

いわた

文化財だより 第176号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和元年11月1日発行

■加茂の里に秋がきた～

賀茂神社例祭と磐田市指定民俗文化財「賀茂神社特殊神饌」

P1～2

■文化財課ニュース

P3

■旧赤松家記念館「かすりの着物で写真撮影」開催！

P4

■コラム『「天狗松と天狗」の話』大草悦子

P4

加茂の里に秋がきた～

賀茂神社例祭と磐田市指定無形民俗文化財「賀茂神社特殊神饌」



9月～10月、日本列島に台風が襲来し、各地で多くの被害がありました。この災害で被害にあわれた方、今も難儀されている皆さん、お見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りします。磐田市内の被害は幸いにも少なく、今年も豊作を祝う秋まつりが市内各所で行われました。今回は10月20日に取材した加茂地区の秋まつり「賀茂神社例祭」をご紹介します。

加茂 天竜川平野に拓けた水田地帯で、加茂東、加茂河原、加茂西からなり、祭礼ではそれぞれの神社で例祭（神事）が行われ、屋台も繰り出されます。賀茂神社で行われる例祭では、磐田市の文化財に指定されている特殊神饌が伝えられています。



賀茂神社 加茂東の氏神で、養和元年（1181）に京都の賀茂神社（上賀茂神社、下鴨神社）から勧請されたと伝えられています。祭神は鴨若雷命で、旧暦の9月8日（現在では10月の第3日曜日）が例祭です。棟札によると、本殿は慶安4年（1652）に建築されたもので、随所に江戸時代の様式が残されています。



賀茂神社本殿（磐田市指定文化財）

特殊神饌

賀茂神社の祭神に供えられる神饌(神様に献上する供物)は、古くからの形を伝える特殊神饌が3膳、このほかハナゴモリと呼ばれる麴を盛った器、落雁などのお菓子です。特殊神饌は御膳の中央におこわ、その周りに小皿が並べられます。この小皿には薄く切った大根を敷き、この上に生鰹、生鮎、焼鮎、生エビ、里芋、枝豆、白粉餅が置かれます。オコワは周囲を奉書紙で折った「カブト」で巻かれます。



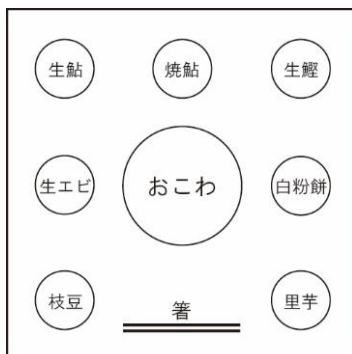
調理の様子

御支度

神饌の準備・調理は、当屋(祭の世話役)と両隣3軒の当屋脇6名によって行われていましたが、現在では総代と祭り当番にあたった隣保(近隣の家)があたります。隣保の組長が当屋の役割を担い、組内から選ばれた6名とともに、神饌の献上にあたります。



特殊神饌



(神前)



準備された神饌
(上段に特殊神饌)



献饌
(当屋より神前に運ばれます)



本殿に供えられた神饌

なおらい直会

神饌に使われた材料は、すり鉢で混ぜられ酢と麴で味が調えられ、神事が終わったあと、直会で参列者に振舞われます。氏子は氏神さまと同じものを食し、その年の豊作に感謝します。



特殊神饌の材料を混ぜ込む



直会の様子





文化財課 ニュース

文化財課キャラクター
ともちゃん

『静岡縣史』掲載の鏡と装飾品を収蔵しました

磐田市埋蔵文化財センターでは、市内の遺跡から出土した遺物を収蔵しています。今回はその中でも8月26日に加わった鏡と装飾品を紹介します。

収蔵の経緯

今回紹介する考古資料は寄贈品で、寄贈者の祖父が収集したものだそうです。寄贈者が幼いころ、この資料を見学するために京都などの遠方から学生さんが度々訪ねて来た思い出があるとのこと。今後、個人所有だと代が変わって資料を散逸させてしまうかもしれないので、市で保管してもらい調査研究に役立てて欲しいという思いで寄贈を決心したとのことでした。

今回の寄贈品は今後、磐田市埋蔵文化財センターで大切に保管・活用していきます。

『静岡縣史』に掲載されている市内で唯一出土した鈴付きの鏡

昭和5年(1930)発行の『静岡縣史』第一巻に今回寄贈していただいた鏡が写真付きで掲載されています。

縣史には「遠江國磐田郡廣瀬村上神増古墳 六鈴鏡(※1) 残缺(※2)」と書かれています。また、明治時代に合代島丘陵上の4基の古墳が発掘されていて、刀や玉類が出土したと書かれています。鏡についての記載はありませんが、この鏡は4基のいずれかから出土したものである可能性があります。

六鈴鏡は、市内で出土している鏡の中では唯一の鈴付きの鏡で、中央部と鈴がひとつ欠けていますが、資料価値がたいへん高いものです。



六鈴鏡

(※1) 鏡の縁に4~10個の鈴がついている鏡。日本独自のもので、古墳時代に祭器として使用されました。

(※2) 缺は欠の旧字体

市内古墳から出土した勾玉、金環などの装飾品の数々



勾玉



切子玉、金輪、管玉

鏡と同じく『静岡縣史』第一巻に今回寄贈していただいた勾玉、金環、管玉、切子玉が写真付きで掲載されています。「遠江國磐田郡敷地村敷地ジツデ古墳出土遺物」とあります。明治時代に古墳から出土したという記録が残っている、たいへん貴重な資料です。



旧赤松家記念館

「かすりの着物で写真撮影」開催！



かすりの着物を着て、旧赤松家記念館で写真を撮ってみませんか。県指定文化財の門と塀、市指定文化財の図書蔵など施設内の好きな場所で撮影が可能です！

●とき:11月16日(土)

受付時間 9:30~11:30 / 13:30~15:30

●ところ:旧赤松家記念館(磐田市見付3884-10)

●対象:かすりの着物は幼児~小学生着用可 ●参加費:無料

●申込:受付時間内に直接会場にお越しください。ただし着物の枚数に限りがありますので、待ち時間が生じる場合があります。

●その他:撮影は保護者の方がおこなってください。



旧赤松家門・塀(県指定文化財)



昨年度の様子

【問合せ】旧赤松家記念館 入館無料

開館時間:午前9時~午後4時30分

休館日:月曜・祝日の翌日・12/29~1/3

TEL/FAX:0538-36-0340

ぜひご参加ください！



©磐田市

職員リレー コラム

「天狗松と天狗」の話

大草 悦子

今から40数年前には、二之宮に天狗が住んでいるとされていた「天狗松」と呼ばれた大きな松の木がありました。天狗が住むと言われていたのは、この木の枝を折ったり、切ろうとする人がケガをすることで、天狗自身の家を壊さないようにしていると考えられていたようです。私が子供の頃にも、ある人が天狗松の枝を切った時期と、ケガをした時期が重なると、それは天狗の仕業だと話題になっていました。

また、新幹線が天狗松や「御殿の一本松遺跡」の南を通ったのは、地元の人達が要望したからという話があります。これは、天狗が天狗松と御殿の一本松遺跡を行き来している道を寸断しないための呼びかけとも言われています。住民の中には新幹線が天狗の通り道を寸断しないとわかると、安心した人も多くいたようです。

このほか、天狗松に登って遊ぶ子供たちのことを、天狗が見守ってくれているとも言われています。同級生が松に登って遊んだ際、天狗のおかげで安心して楽しく遊べたそうです。この松は今はもう無くなってしまいましたが、天狗はどこからか子供たちのことを今でも見守っていてくれているという気がします。



天狗松 (『磐田ものがたり』より)

編【P1~2】事前調査・当日取材に御協
集力いただき誠にありがとうございます
後た。【P3】鏡をはじめ貴重な考古資料を
記寄贈いただき感謝申し上げます。

発行:磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所:〒438-0086 磐田市見付3678-1
電話:0538-32-9699



◆WEB版は市HPから閲覧できます。 磐田市 文化財だより 検索